

2020年2月16日（日）

主 題：「あなたは私の兄弟です」

—愛の働き—

テキスト：ヤコブ5章19、20節

5:19 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、

5:20 罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。

### はじめに

- ・キリスト教会に初めて来られた方が、不思議に思うことの一つ。それは教会では、兄弟、姉妹と互いに呼び合うことです。一般的に、兄弟姉妹とは家族間で用いるものです。しかし、キリスト教会内で兄弟姉妹と言うのは、なぜだろうと思います。
- ・聖書は、キリストの教会は神の家族であると教えています。肉親という血のつながりはありませんが、イエス・キリストによって、神の家族の一員となるからです。違いは、霊的に「**神の家族**」の兄弟姉妹という関係です。
- ・ところで、ヤコブの手紙も最後の2節でしめくくりに入りました。そこでヤコブは、「**私の兄弟たち**」と呼びかけました。この呼びかけには、とても重いものがあります。
- ・マタイ福音書12章には、次のような記録があります。
 

12:46 **イエスがまだ群衆に話しておられるとき、見よ、イエスの母と兄弟たちがイエスに話をしようとして、外に立っていた。**

12:47 **ある人がイエスに「ご覧ください。母上と兄弟方が、お話ししようとして外に立っておられます」と言った。**

12:48 **イエスはそう言っている人に答えて、「わたしの母とはだれでしょうか。わたしの兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。**
- ・皆さん。この48節のことばは、大変冷たい答えのような気がしますね。何があったか不明ですが、とにかくイエスに会いたいという願いで、やって来たのです。みことばは「**外に立っておられる**」と記録しています。用があるから、外で立って待っていたことでしょう。
- ・母マリアは、イエスから「お母さん！」と呼びかけてほしかったかもしれません。ヤコブを含めて、イエスの兄弟たちも、同じように話しかけてほしかったかもしれません。実の親子、兄弟でありながら、ゆっくり話をすることもできない毎日であったと察します。彼らは、「寂しいなあ」、「冷たいなあ」と思っていたのではないのでしょうか……。
- ・その時、イエスは彼らに言われました。
 

12:49 **それから、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。**

12:50 **だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄**

### 弟、姉妹、母なのです。」

- ・後になって、ヤコブは実兄がキリスト（メシア）であることが分かり、信じるに至った時、イエスの言われたことば（一見冷たく感じたが）の真意が、分かったのではないかと思います。さらにヤコブは後になって、エルサレム教会の指導者となり、クリスチャンは「**神の家族**」であることの真意が、一層分明らかになったことと思います。
  - ・人間的つながりでの兄弟以上の、主にある兄弟姉妹であるという意識から、心からの愛をよけいに募らせて、「**私の兄弟たち**」と呼びかけたのではないのでしょうか。
  - ・では、ヤコブはこの書簡の最後で、何を「**私の兄弟たち**」に呼びかけたのでしょうか。
- 2点

### 大切なポイント

#### 1. あなたがたのうちにある可能性

5:19 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、

- ・ここで、私たちは3つの可能性を考えることができます。

#### 1) 迷い出る可能性

- ・まず第1番目は、私たちは折角イエス・キリストを信じ、信仰生活に入れていただくことができても、そこから迷い出る可能性があるということです。  
「**私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて**」とあります。
- ・聖書は、私たちが神を信じることができたならば、もう絶対に迷い出ることはない、とは言っていません。むしろ、私たちは心して警戒していないと、信仰の道から迷い出てしまうと教えています。そしてへたをすると、信仰の道に戻ってることができない。そういうことがあり得るのだ、と言っています。
- ・どうぞ間違えないでください！ それはだれにも、私にも、すばらしい信仰者に見える人でも、絶対に神から離れることはない、とは言えません。  
聖書が、その可能性について語っていることを覚えてください。
- ・ヤコブの時代、ご存じのように、それは迫害の時代でした。そういう辛さのために、一度はイエスを信じ従う決心をしたにもかかわらず、真理から迷い出た人がいました。
- ・非常に残念ですが、私たちの教会の歩みの中でも、イエスを信じ、洗礼を受け、クリスチャン生活をスタートしましたが、「**真理から迷い出てしまった**」方々がいること認めなければなりません。そこには、それなりの理由はあります。だれが良い、だれが悪いという問題ではありません。そういう事実があるということです。
- ・ここで、注意しておきたいことは、「**迷い出た**」状態であることことです。  
20節に「**迷いの道**」とありますが、私たちは道に迷うことがあります。  
その状態と同じように迷った状態なのです。
- ・迷うということは、意識的にすることではありませんね。はじめから、「道に迷おう」と思う人はいないでしょう。いつの間にか、迷ってしまうのです。ふと、気がつくと道に迷っていたというものです。それに気づくまでは、道に迷っていることを知らないでいるものです。

- ですから、意識的に信仰を捨てることとは違います。(意識的に信仰を捨てることと、迷い出ることとは違います。)
- では、どうすれば良いのでしょうか？ それはイエス・キリストを日々仰いで歩くことです。イエスは言われました。ヨハネ福音書14章  
イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

## 2) 回復の可能性

- 迷い出ても、回復の可能性はあります。それが第2のポイントです。  
5:19 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、
- 信仰の道から迷い出てしまったとしても、幸いなことに、私たちには回復の可能性がります。ヘブル6章には次のように書かれています。  
6:6 墮落してしまうなら、そういう人たちをもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、さらしものにする者たちだからです。
- ここに書かれている聖句は、厳しいことばです。そこで、このヘブル人への手紙6章の文脈的視点から読んでみますと、ここでいう「墮落してしまう」とは、意識的に信仰を捨てるという意味です。その人は、「神の子をもう一度十字架にかける」、こととなると表現されています。
- つまり、十字架の意義を無意味にするということです。十字架の否定です。そういう人は、「もう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。」と著者は言いました。キリスト・イエスの十字架の御死は、一度だけで、前にも後ろにもありません。十字架のわざは完全であり、それで十分であるからです。
- しかし、「迷い出た」人ならば、回復の可能性はあります。迷っているのですから、その迷いが晴れるならば、回復することができます。
- 信仰生活を送るなかで、いろいろな出来事が起こります。嫌なこと、辛いこともあります。そういう中で、迷ってしまう時、同じ信仰をもつ人がいてくれること。また祈ってくれる人がいることによって、私たちは連れ戻され、引き戻されるのです。  
マタイ福音書は、この述べています。  
18:12 あなたがたはどう思いますか。もしある人に羊が百匹いて、そのうちの一匹が迷い出たら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないでしょうか。  
18:13 まことに、あなたがたに言います。もしその羊を見つけたなら、その人は、迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜びます。  
18:14 このように、この小さい者たちの一人が滅びることは、天におられるあなたがたの父のみこころではありません。

## 3) 役立つ可能性

- 3番目に、迷い出た人を連れ戻すために、「だれかが役に立つことができることです。1

9節「あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら」、とあります。

- ・真理から連れ戻すことは、決して牧師や伝道師だけの仕事とは限りません。もし、そうであるならば、そのように書いてあるはずですが。実際、迷った時に、自分を信仰に連れ戻してくれたのは、必ずしも牧師や伝道師がしてくれたことばかりではありません。お互いにそれを経験しているのではないのでしょうか。
- ・教会の兄弟姉妹の、ちょっとした言葉や行いが、私を迷いから引き戻してくれたという経験をもつ人がおられるでしょう。「だれかが」です。その「だれか」に、私もなりうるのです。
- ・このように、イエスによって救われた存在である私たちは、3つの可能性をもつ者であることを覚えてください。それが19節です。では、次にヤコブは、「私の兄弟たち」にどう生きるべきであると勧めたのでしょうか。それが次の第2のポイントです。

## 2. 大きな愛の働き

5:20 罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。

- ・真理から迷い出た人を連れ戻すことは、じつに大きな愛の働きです。真理に連れ戻すとは、どんな意味でしょうか。2点

### 1) たましいを死から救う

- ・教会に一度つながってから離れてしまった人を、再び教会に連れ戻すということは、幸いなことです。しかし、それは単に元いたところへ、主イエスにある信仰生活へ引き戻すということ、だけではありません。
- ・もし、その人が教会を離れたままであったならば、その人の魂はどうなるのでしょうか……。平安はないはずです。教会から離れてしまった人を引き戻すとは、その人の魂を死から救うこととなります。永遠の滅びから救い出すことになるのです。

#### {例話}

- ・私はこのような話を耳にしました。韓国のキリスト教会の話です。私の母教会は、小さな村にある笑いの絶えない美しい教会でした。しかし、予期せぬ争いにより、教会はたちまちバラバラになってしまいました。当時、大学生であった私も教会を離れなければなりませんでした。
- ・今、私は牧師になっていますが、信仰生活で試練(試み)があることは事実です。牧師になって、現場で見聞きして感じることは、最近青年の時期に私のように教会から離れてさまよう人が、次第に増えていることです。「ウインドウ・ショッピング」でなく、「チャーチ・ショッピング」をする人も現れています。
- ・幸いなことに、私の場合は妹の叱責まじりのアドバイスを聞き、教会に戻ることができました。そして教えられたことは、詩篇のみことばでした。

詩篇131篇1～3節

<都上りの歌。ダビデによる。>

131:1 【主】よ私の心はおごらず私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなこと



や奇しいことに私は足を踏み入れません。

131:2 まことに私は私のたましいを和らげ静めました。乳離れした子が母親とともにいるように乳離れした子のように私のたましいは私とともにあります。

131:3 イスラエルよ今よりとこしえまで【主】を待ち望め。

- ・詩篇 131 篇は、神殿を母と理解し、乳離れした子のたとえとして歌っています。乳離れした子は、じつに悲しそうに泣き続けるものです。しかし、母親が抱くと、すぐに泣き止みます。
- ・「都上りの歌」という表題がついている詩篇 131 篇は、神殿で回復していく魂の平安を、子が母の胸の中で泣き止むことにたとえています。神殿を母の懐として歌いました。
- ・イスラエルの民が神を礼拝する場である神殿、それを今の私たちは、教会と置くことができます。詩篇 131 の作者は、そこで神を礼拝する平安（シャローム）を歌いました。 (李サンヒ牧師)

## 2) 多くの罪をおおう

5:20 罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。

- ・信仰から迷い出た人とは、未信者の方を言っているわけではありません。いったん、真理の道に入った人のことです。もちろん、私たちは未信者の救いのためにも努力しなければなりません。
- ・しかし、ここでは「罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになる」と書かれています。それは、どういう意味でしょうか。それは、もしその人を連れ戻さなかったならば、その人はさらに多くの罪に落ち込んでいくことでしょうか。そのことによって、罪がさらに周囲に広がっていくかもしれません。
- ・1 人の人を迷いの道から連れ戻すということは、その人は引き戻されなかったら犯したかもしれない多くの罪、その罪が周囲に広がっていくことにブレーキをかけることになります。ですから、1 人の人を真理の道に連れ戻すということは、大変大きな愛の働きであります。
- ・大きなことをする必要はありません。あの人は、最近迷っているのではと思ったならば、あるいはあの人は最近、教会でお顔を見ないなと思ったならば、その人のために祈ることができるはずです。また、手紙を書いてあげることもできます。
- ・身近にそういう人がいることに気づいたならば、イエスの愛をいたただいて、「だれかが」（あなたが、私が）です。そのことをさせていたただこうではありませんか。それこそ、神の家族の一器官としての尊い働きではありませんか。
- ・私たちのとる労は、小さいかもしれません。しかしその結果、その人が真理の道に戻ってくれるならば、どんなに幸いなことでしょうか。それは神がお喜びになることであります。⇒それこそ、ヤコブが意味する「私の兄弟たち」、「神の家族」です。それが、私たちがとるべき奉仕です。「神の家族」に属する者の違いのつながりです。

|       |
|-------|
| ま と め |
|-------|

主 題：「あなたは私の兄弟です」

—愛の働き—

- ・今朝、私たちは大切なメッセージを聞きました。ヤコブは「私の兄弟たち」とこの書簡の最後で呼びかけました。私たちも「神の家族」の一員です。

そこには、3つの可能性があることを覚えました。

1. 3つの可能性

- ① 迷い出る可能性
- ② 回復する可能性
- ③ 役立つ可能性

- ・「神の家族」の一員として、覚えたいことは：

2. 大きな愛の働きです

- ① たましいを死から救う働き
- ② 多くの罪をおおう働き

- ・それは「神の家族」の私たちに与えられた、「大きな愛の働き」です。

私たちは同じ主である神を仰ぎ、「神の家族」の一員として、今週も主イエス・キリストとともに歩き進もうではありませんか。

\* God bless you !